

薬の専門家が施設内の薬剤を管理し、総合的なサービスの向上をサポート。

入居者の薬剤管理の複雑さに苦慮している介護施設は多い。今回、じいんとでは、スギ薬局の高齢者施設での携わり方にクローズアップした取材を行った。スギ薬局は、薬のプロとして数年前からこの問題に取り組み、薬の一包化とカレンダー化という薬剤管理システムで施設スタッフの手間と時間を短縮。入居者に対する総合的なサービス向上に貢献している。



入居者へのサービス向上、薬剤師にもメリット

3年前からスギ薬局に薬剤管理を任せている介護付有料老人ホーム“ザ・サンシャイン南翼”の村中優幸さんは言う。

Q.スギ薬局のサービスを取り入れて、どのようなメリットがありましたか？

「うちは定員50名のホームですが、このシステムを採用する前は、薬剤管理に時間と手間をとられ大変でした。スタッフはもちろん、看護師も薬のプロではありませんから、とても神経を使っていました。でも、いまはこのカレンダーのおかげで助かっています。スタッフにとって専門外の業務がひとつ減れば、それだけ入居者と接する時間が増えますから、サービスの向上にもつながります」



ザ・サンシャイン南翼 施設長 村中 優幸さん



ザ・サンシャイン南翼

地域の“掛かりつけ薬局”として在宅医療に貢献

スギ薬局では、薬剤管理だけでなく、施設のスタッフに対して薬の勉強会も開催している。一般的な薬の基礎知識に加え「お茶で薬を飲んでもいいの？」といった素朴な質問への回答から、薬の飲み合わせ、嚥下が難しい方への薬の飲ませ方、さらには目薬のさし方でレクチャー。介護のスタッフ研修では教わらない内容なので関心が高く、勉強会開催のリクエストも多いという。

また、ドラッグストアのメリットを活かし、メイクアップ講座を開いたり、薬を届けるついでに日用品を配達するサービスなども行い、非常に重宝されている。

在宅の薬剤管理という専門性の高い仕事から物販のデリバリーまで、幅広いフィールドで在宅医療を支えるスギ薬局。今後さらにその役割が拡大し、地域の“掛かりつけ薬局”としての存在感を深めていきそうだ。



施設内の薬剤管理に 取り組むスギ薬局

高齢になると誰も何らかの疾患をかかえ、通院や薬の服用が欠かせない。複数の病院に通っている場合、処方される薬の量や種類が増えるだけでなく、別々の病院から同じ薬を重複して処方されていることもあり、薬の飲み合わせなども問題になるケースがある。

薬は、お薬手帳などで確認し、自己管理するのが基本だが、多くの高齢者が生活する介護施設では、その管理・服用は看護師やスタッフに委ねられる。100人規模の施設になると、その業務は膨大なものになり、中には誤投薬で死亡した事例も報告されている。

こういったミスをなくすため、介護施設の薬剤管理に力を発揮しているのが、スギ薬局だ。



お薬カレンダー



一包化された薬

Q.入居様がいろいろな掛かりつけの病院から、さまざまな薬を処方されていると思いますが、その管理(飲み合わせ)等は複雑になりませんか?また、どのように管理されていますか?それに伴うリスクなどはありませんか?

「施設では、医師や看護師が入居者の健康チェックを行います。病院のような薬剤管理の機能はありません。複数の医療機関から出される処方せんを、それぞれの薬局がそれぞれの方法で調剤すると、薬を受け取った施設では管理が大変です。薬を飲ませるたびに、スタッフが仕分けするのも非効率的です。医療機関にかかわらず、スギ薬局が調剤・加工すれば、調剤方法が統一され管理がしやすく、ミスの危険性もなくなります。さらにいえば、残薬や無駄な投薬がなくなることから、国家的な医療費の削減にも貢献できていると思います」



スギ薬局 在宅医療営業部 統括マネジャー 谷 敦史さん

薬を一包化し、カレンダーで わかりやすく管理

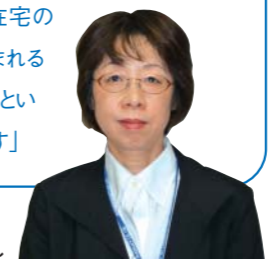
調剤併設型ドラッグストアとして、全国にチェーン展開する同社は、無菌調剤室を設置し、10年ほど前から新しい事業展開のひとつとして在宅医療に注目してきた。介護施設との連携もその一環で、現在100余りの施設で薬剤管理を行っている。その中心は、入居者それぞれが一回に服用する薬を一包化し、カレンダーにして届けるというサービスだ。

薬は、服用時点ごとに、識別線と名前が印字された袋に一包化され、さらにその袋がカレンダーにセットされて施設に届く。これを見れば誰が、いつ、どの薬を飲むかが一目瞭然。誤投薬がなくなるだけでなく、飲み忘れも防止できる。

土日営業し、夜間もオンコールで薬剤師が対応するなど、緊急時の体制も整えられているので、その点も心強い。

また、このシステムは薬剤師にとってもメリットが大きい。

「薬剤師は今まで、調剤室の中だけで仕事をしていたが、施設にうかがい在宅の現場を見るということは、お薬を飲まれる方の生活全般を見ながら調剤できるということですから、非常に勉強になります」



スギ薬局在宅医療営業部 コーディネーター・薬剤師 川口 はるひさん

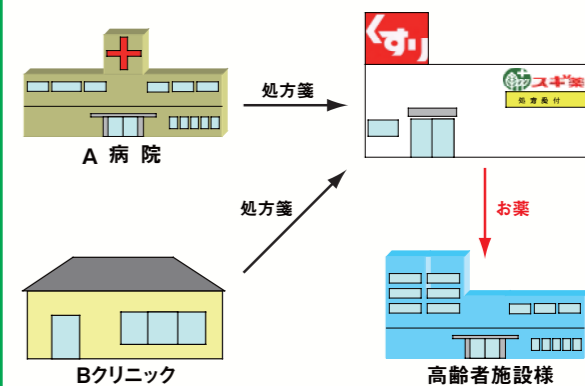
このサービスを受けるには、入居者が任意でスギ薬局と契約を結び、1回の処方につき、350円の管理指導費を支払う。“ザ・サンシャイン南翼”では、通常2週間に1回の管理指導を行っている。入居者の負担は、多くはお薬代と月700円の管理指導料となる。入居契約の際、スギ薬局の担当者立会いのもと、薬剤管理のシステムを説明し、納得いただいた方と契約書を交わすが、今のところ、これを拒否した入居者や家族はいない。



薬剤師とナースの打ち合わせ風景

スギ薬局がご提案するお薬の管理方法

掛かりつけ医と共に、掛かりつけ薬局を持つ



医療機関にかかわらずスギ薬局がお薬を調剤・加工します。これにより調剤方法が統一され、管理がしやすくなります。

どの病院からのお薬も同じルールで調剤されるから、管理がしやすくなります!



取材協力企業:スギホールディングス株式会社
本社:愛知県安城市
資本金:154億3,400万円(2009年8月現在)
事業内容:在宅医療および地域医療対応型ドラッグストアチェーンの営業、運営

取材協力施設
事業主体:株式会社ツクイ
ホーム名:ザ・サンシャイン南翼
類型:介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)
所在地:大阪府大阪市生野区